

就きては、此等の記事は皆好く一致するものと曰ふべく、其の間何等の疑を容るべきなし。

偕て彰信可汗の死後兩唐書は掘羅勿が監馭特勒を以て可汗と爲したりと記し、唐會要・冊府元龜及後唐獻祖紀年録は勿薦公若しくは勿篤公即ち宰相掘羅勿が國人に推されて自から位に上り、監(晉)颯可汗と稱するに至れりと記せるが、今其の何れに據るべきかを明かに定むる能はず^{二六九}。監馭可汗は早くも即位の翌年、即ち開成五年に將軍句録莫賀と黠戛斯との軍に攻められて死し、回鶻は遂に茲に至りて潰裂し、諸方に分散せざる可らざるに至りしものにして、舊唐書廻紇傳には

有將軍句録末賀、恨掘羅勿、走引黠戛斯、領十萬騎、破廻鶻城、殺監馭、斬掘羅勿、燒蕩殆盡、廻鶻散奔諸蕃と見え、新唐書回鶻傳にも

俄而渠長句録莫賀、與黠戛斯、合騎十萬、攻回鶻城、殺可汗、誅掘羅勿、焚其牙、諸部潰

と記さる、こゝに廻(回)鶻城と記さるゝものは裴羅によりて Orkhon 河畔に建てられたる Kara Balgassun の地と見るべきものなる可ければ、裴羅以來の回鶻の功業は、茲に至りて其の本據と共に覆へされたるものなりとす、抑も黠戛斯と回鶻との争は、前に見たるが如く乾元元年に於る回鶻の使の奏にも見え、其の後保義可汗の紀功碑中にも記さるゝ所なるが、新唐書黠戛斯傳によれば

回鶻授其君長阿熱官、爲毗伽頓頡斤、回鶻稍衰、阿熱即自稱可汗、……回鶻遣宰相伐之、不勝、拏鬪二十年、阿熱即恃勝、乃肆罵曰、爾運盡矣、我將收爾金帳、於爾帳前、馳我馬、植我旗、爾能抗亟來、即不能當疾去、回鶻不能討、其將句録莫賀、導阿熱、破殺回鶻可汗、諸特勒皆潰